北海道豪雪過疎地域における広域的除排雪ボランティアシステム構築に関する実践的研究(3)
－ 広域的除排雪ボランティアがもたらす受入地域への影響–
Practical Study on the Volunteer for Snow removal

小西信義（北海道大学大学院文学研究科），中前千佳，原文宏（一般社団法人北海道開発技術センター）
Nobuyoshi Konishi, Chika Nakamae, Fumihiro Hara

１．はじめに

除排雪の担い手の減少と高齢化は，寒冷過疎地域では切実な問題である．この問題に対し，著者たちが所属する「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」（事務局；（一社）北海道開発技術センター）は，住民による自助機能が低下した地域に，雪処理の担い手を地域外から調達する広域的除排雪ボランティア（通称；雪はねボランティアツアー）の実践的研究を展開してきた（中前ら，2013）．

本報告では，これまでの研究成果に引き続き，持続可能な広域的除排雪ボランティアの構築に資するべく，援助者を受け入れた人びとや地域の側面に焦点を当てる．受け入れによる地域への影響を記述することは，実践上の課題整理と受入地域に対する視点の提供をすることでもある．そこで，本報告では，ボランティアを受け入れた地域が，「広域的な除排雪ボランティア」という取組や地域外の「よそ者」の介入に対し，どのようなことを期待し，どのような影響がもたらされたかを，ツアーの観察や事前事後の聞き取り調査・観察を基に記述を試みた．

２．雪はねボランティアツアーの概要

調査は，2014 年 1 月～3 月における「雪はねボランティアツアー」内で行われた．このツアーは，当別町みどり野地区（1 月 25 日，2 月 1 日），岩見沢市美流渡地区（1 月 26 日，2 月 2 日，2 月 22～23 日），上富良野町扇町地区（2 月 15 日），三笠市唐松・美和・幾春別地区（2 月 8 日），倶知安町琴和・六郷地区（2 月 9 日，3 月 2 日）における除排雪が困難な世帯（独居高齢者世帯など）の雪処理を公募ボランティアによって支援する，札幌発着型の日帰りボランティアツアー(2 月 22～23 日のみは，一泊二日)のことである．

（１）各ツアーで行われたこと

図 1 は，各ツアー内のバス移動・除排雪活動・昼食・入浴などのプログラムに分配された時間を比較したものである．対象地域と札幌市内との距離により，バス移動時間に異動が見られるのは当然のことであるが，除排雪活動（安全上，屋根雪下ろしは厳禁）に充てられた時間も違えば，社員研修（当別町）・命綱講習（岩見沢市）・雪下野菜掘り体験（倶知安町）・アートイベント見学（上富良野町）・地域の人びとの飲食を兼ねた交流会（岩見沢市・倶知安町・上富良野町）・町職員による観光紹介（倶知安町・上富良野町）というように，除排雪活動以外の研修やアクティビティ，地域交流会，観光紹介なども地域や日程に応じて実施された．

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部

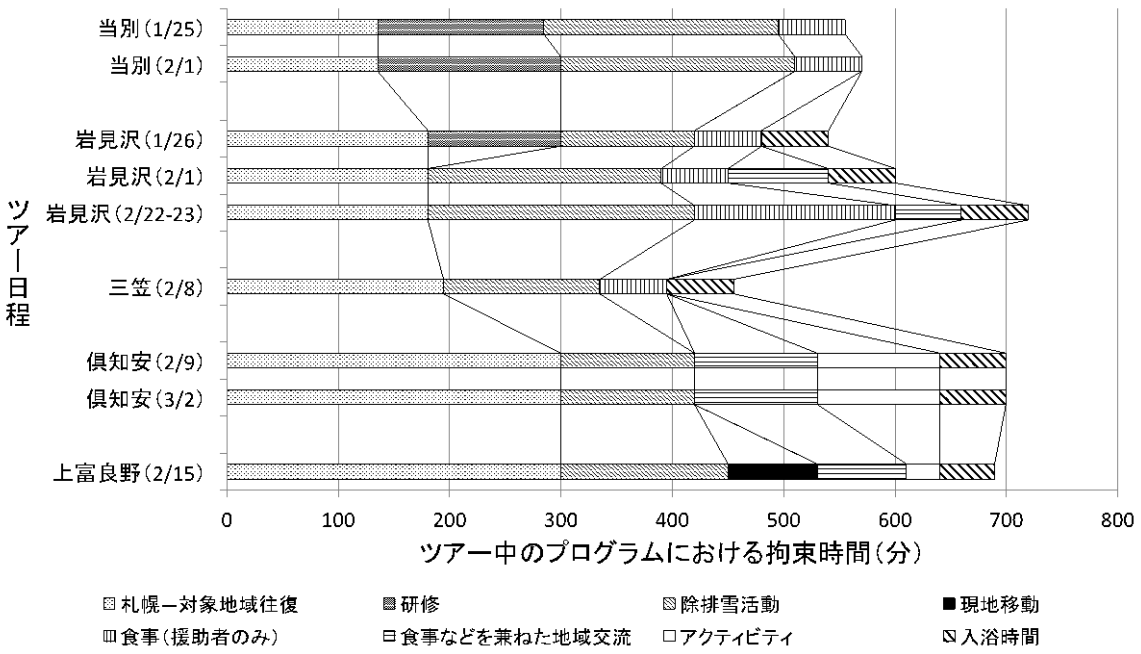

図 1 地域・日程ごとのプログラム上の時間配分
（2 月 22～23 日は，一泊二日だが，就寝時間は除く）

（2）受入地域ごとの除排雪ボランティア体制の違い

表 1 は，2014 年冬期の「雪はねボランティアツアー」を受け入れた地域の除排雪ボランティア体制を示したものである．これらは，著者による参与観察（岩見沢市），担当者へのヒアリング（当別町・三笠市・倶知安町），町広報誌（倶知安町・上富良野町）から得られたものである．類型について，社協（社会福祉協議会のこと）／町役場主導型は，広域的ボランティアの受入経験の多寡により，成長期と円熟期の段階を設けた．町内会主導型は，地域内ボランティアに関わる人材の多寡により，縮小期と自給期の段階を設けた．

表 1 地域ごとの地域内除排雪体制

	地域内ボランティア実施主体	主な地域内ボランティア活動者	広域的ボランティア受入経験	ボランティア人材	地域内除排雪体制の類型
当別町	社協	町内外の有志	多い	潤沢	社協主導型（円熟期）
岩見沢市（美流渡）	社協・町内会	町内会の有志	なし	枯渇	町内会主導型（縮小期）
三笠市	社協	市内の有志	少ない	充足	社協主導型（成長期）
倶知安町（琴和）	町役場・町内会	シルバー人材派遣登録者・町内会の有志	なし	潤沢	町内会主導型（自給期）
上富良野町	町役場・社協	町内の有志	少ない	潤沢	町役場・社協主導型（成長期）

地域ごとの特記事項として，当別町は，社協を中心に町内外からのボランティアの受入は道内でも長年継続的に行われ，かつ地元企業・大学・高等学校・自衛隊などの地域内ボランティアが安定的に自給されている点で先進的である．岩見沢市美流渡地区は，「地域除排雪活動支援事業」（市から社協への委託事業）を基盤としながら，独自の“住民ルール”を設け，除排雪活動を行っている．三笠市は，社協に登録する市内の有志による除排雪ボランティアを行ってきたが，平成24年度より札幌圏の企業連携グループの受け入れをはじめた．倶知安町では，主にシルバー人材センターの登録者が，除排雪困難世帯のボランティア活動を行っている．特に，本ツアーで受入地域となった琴和町内会は，シルバー人材センターで手の届かない世帯を対象に月一回の

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部

一斉除雪を行う独自の共助機構（ちょボラ除雪隊）を有している．上富良野町は，社協が中心となり，地元有志・企業・自衛隊員によるボランティアを精力的に行っている．また、本ツアーの前身にあたる「雪はね隊」も平成18年から受け入れている。

（３）受入に関わる役割のシェア

ツアー実施において，企画・運営を担う「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」が「実施主体」，当該地域の役場や社会福祉協議会が「受入主体」，実際に除排雪作業世帯や入浴施設のある「受入地域」が、主なステークホルダーである．これら三者の協議・合意の下にツアーが，春期から秋期にかけて設計される．

表 2 は，2014 年冬期の「雪はねボランティアツアー」における実施主体・受入主体・受入地域の役割分担を示したものである．地域により細かな差異はあるが，地域内の除排雪体制が基盤となり，広域的除排雪ボランティアの受入体制も構築されたと言える．つまり，町役場／社協主導型の除排雪体制を有する地域は，町役場や社協が中心的な役割を担い，町内会主導型の除排雪体制を有する地域は，町内会が中心となり，受入体制を準備・整備していたことがわかる．

表 2 広域的除排雪ボランティアに関わる実施主体・受入主体・受入地域の役割分担

	地域内除排雪体制の類型	主なステークホルダー		対象世帯の選定と交渉	除排雪具の貸出し	作業指示・安全管理	食事の準備	除雪作業者の派遣	施設手配
当別町	社協主導型（円熟期）	実施主体	研究会		●	○			
		受入主体	社協・町役場	●	○	●	●		●
		受入地域	町内会						○
岩見沢市	町内会主導型（縮小期）	実施主体	研究会		●	○	●		
		受入主体	町内会	●	○	●		●	●
		受入地域							
三笠市	社協主導型（成長期）	実施主体	研究会		●	○			●
		受入主体	社協	●	○	●	●	●	●
		受入地域	町内会						
倶知安町	町内会主導型（自給期）	実施主体	研究会		●				
		受入主体	町役場・振興局		○				○
		受入地域	町内会	●		●	●	●	●
上富良野町	町役場・社協主導型（成長期）	実施主体	研究会		●		●		●
		受入主体	町役場	●	○	●			
		受入地域	町内会	○		○		●	

（●が中心的な分担者，○は補佐的な分担者）

３．広域的除排雪ボランティアの受入が地域に与えた影響

（１）倶知安町の事例

倶知安町では，先述のように安定的な共助機構を有する琴和町内会が 2013 年冬期の受入地域となった．ツアー当日の地域交流会では，町長も参加し，「ちょボラ除雪隊」と札幌市民からなる広域的除排雪ボランティアとの共同作業や交流を視察した．この「雪はねボランティアツアー2013 in 倶知安」を契機に，町長は琴和町内会以外の町内会でも共助機構を期待するようになったという．倶知安町職員は，「町長が，町政報告会で『各町内会でも，琴和町内会のように地域内共助を推進してほしい』と熱弁していた」と述べた．その結果，2013 年 11 月六郷親交会で「六郷ちょボラ除雪隊」が組織化された．また，ボランティア

図 2 広報くっちゃん 2 月号の記事

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部

には，倶知安町の観光パンフレットが配布され，交流人口の増加の目的も伺えた．

（２）岩見沢市美流渡地区の事例

2013 年冬期受入地域となった美流渡地区では，2013 年 11 月の町内会役員会にて「今年は，炊き出しでも用意しよう」という提案が起こり，ツアー二日目（2 月 2 日）の地域交流会にて実施する予定だった．しかし，その提案は今冬実現することはなかった．それは，ツアー一日目（1 月 26 日）の屋根からの落氷雪が起こったためである．この「事件」を受け，連合町内会は，美流渡駐在所からの安全指導により，安全指導役の参加役員の増員と除排雪活動範囲の制限・ヘルメットの準備を設ける緊急役員会が開くこととなった．連合町内会事務局長は，この状況を「炊き出しどころではない」と述べた（1 月 29 日）．また，ツアー三日目（2 月 23 日）の除排雪作業では，T 町内会長より「あの家の雪かきはしたらだめだ」という対象世帯の取り下げの打診があった．T 町内会長は，「あの家」の除排雪をすると，T 町内会内の他の地域除排雪活動支援事業の対象世帯からの批判が起こることを懸念したのである．それはつまり，町内会ごとで，対象世帯の選定条件に相違があり，美流渡連合町内会全体での合意形成が成熟していない結果と言える．

このような受入状況を，連合町内会事務局長は，「受け入れるかも含め，今後話し合っていかないといけない．正直，（屋根の雪下ろしもしないので）遊びに来ているようだ」と述べ，地域内を調整するコスト感と実際の支援効果が不均衡になっているという認識が浮き彫りとなった．

４．結論と考察

結論として，今冬の受入地域を，受入目的と受入効果に位置した概念図を提示する（図 3）．倶知安町の事例のように，「よそ者」の介入が契機となり，地域内共助を推進させることもある．また，三笠市や上富良野町は，将来的な雪処理の担い手を確保するための地域内共助の活発化や交流人口の増加を狙いとしていることが伺える．

美流渡地区の事例のように，受け入れることによって割かれるコストを割高に思うこともある．また，この「受入疲れ」の本質的な原因は，「よそ者」の出現により，地域内のいざこざを喚起してしまうことにあり，広域的な雪処理問題への取り組みが地域社会集団の潜在的問題をあぶり出してしまう可能性もある．

このような「受入疲れ」は，援助コストを極小化しながらエンパワーメントを獲得する援助者（小西ら，2013）と被援助者の「非対称性」の問題として提起され，受入意図を阻害する要因と考えられる．しかし，その「非対称性」を町内会で話し合うことで乗り越えようとする意思もあり，それは広域的共助を活発化する働きがあるだろう．そのため，町内会主導型の地域を町役場／社協主導型へ移行するという手段が，解決策とは現段階では言えない．

今後，受入主体や地域の性質を鑑みながら，地域の実状に即したツアー設計をしていく必要がある．また，役割のシェアの最適化・屋根雪下ろしの実施など運営サイド側の力量も試される段階となっている．

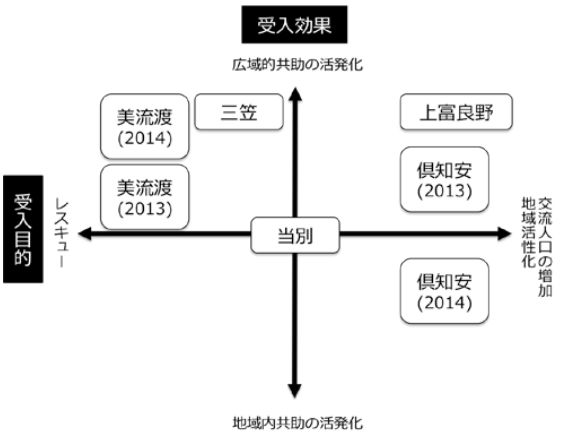

図 3．受入目的と受入効果の概念図

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部